

オープン
カレッジ

昨年、NHK大河ドラマ「光る君へ」は、「源氏物語」を執筆した紫式部と彼女を取り巻く人々の生涯を描いた魅力的な作品であった。その源氏物語の主人公・光源氏のモデルとされる源融(みなもとの・よおの)に似せたという阿弥陀如来像が京都・清涼寺にある。この像は、源融の一周忌に合わせて息子たちが完成させた阿弥陀三尊の一体で、嵯峨光仏(さがこうぶつ)と呼ばれる。

徳川光友公の「嵯峨光仏」

大森寺の「嵯峨光仏」とX線CT画像



大切に守られている。

筆者は、昨年春に名古屋城西の丸御蔵城宝館で開催された「守山の御寺 大森寺の宝物」展に向けた調査の際にこの仏像と出会った。像は室町時代の制作とみられ、当初は仏が放つ光をあらわす光背(こうはい)と呼ばれる部分に取り付けられていた複数の小仏像の

め込まれており、そのことが気になった筆者は名古屋工業研究所でX線CT撮影を行う機会を得た。私たちの検診と同じようにX線CT撮影を行うと、像内部の様子など、肉眼では分からないさまざまな情報が得られる。最近の仏像調査では表面観察に加えて、こうした科学的調査が行われることも多く、今回も像の構造や納入物について興味深い情報が得られた。

名古屋市の
仏像に親しむ

弥陀如来像で、尾張藩一代藩主・徳川光友が伝えた「嵯峨光仏」として、「嵯峨光仏縁起絵巻」とともに



尾張藩一代藩主・徳川光友が伝えた「嵯峨光仏」

一体と考えられる。清涼寺は、何度も災禍を経験しており、特に慶長9(1605)年におきた大地震の際には阿弥陀三尊の光背が破損し、そこに付いていた仏像も散逸したようで、大森寺に伝わる「嵯峨光仏」もその頃に寺外に出た一体かもしれない。

この「嵯峨光仏」には胸部や両肩付近に1.5程の真珠のような球体が何個も埋

名古屋市は、2024年7月に「名古屋市文化財保存活用地域計画」が認定されており、市内の文化財の保存と活用に関わる事業が今後より積極的に進められていくことになるだろう。

その中には、関連文化財群の一つとして「尾張徳川家の信仰を伝える寺社」が設定されており、大森寺もその中に含まれることから、同寺に伝わる数多くの文化財も一層注目されることだろう。つい先日にも本学の社会人向け講座で市内にある尾張徳川家ゆかりの寺院を見学した際、思いがけず12世紀頃の仏像に出会った。

名古屋は名古屋城築城時にできた新興都市で、寺院も外から移転してきたものや新たに建てられたものが多く、名古屋空襲での焼失もあり、古い仏像は多くないとされてきた。しかし、実はまだまだ歴史ある仏像が残されている可能性が高い。今後の文化財調査の進展の先には大きな希望がある。

みた・たかあき 美術史学。名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学 博士(文学)。

尾張藩一代藩主・徳川光友が伝えた「嵯峨光仏」